

将来の  
職業との関連  
51.9%

現在の  
入試制度の仕組み  
42.7%

学部・学科の  
内容  
38.6%

進学費用  
52.3%

お子さんの進学にあたって  
保護者としてどのような情報が  
重要だと思いますか？\*

就職の状況  
38.6%

\*社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート合同調査  
「第5回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2011」より

最新データと大学事例からみる大学教育の今

# 大学レポート 2012

上のデータも示すように、多くの保護者はお子さんの進学先を考えると、将来の職業との関連や、具体的な学びの内容を重視するようです。

この特集はそういう視点も取り入れながら、6校の大学をレポートしました。「教育改革」と「キャリア教育」という現代的なテーマに各大学がどう挑戦しているかをご覧ください。

まずはその前に、保護者の時代と現在とで大学や大学生がいかに変わったか、それがよくわかるデータから紹介していきましょう。

## 教育改革 Educational Reform

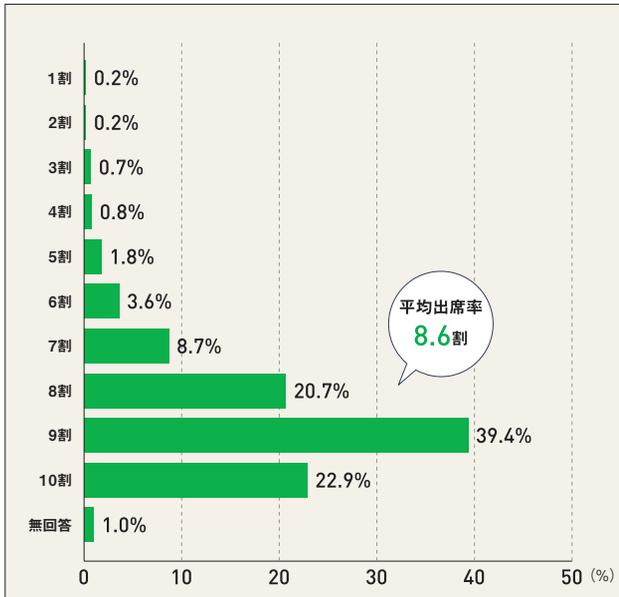
- 神奈川大学 ..... p.24
- 東京未来大学 ..... p.26
- 文京学院大学 ..... p.28

## キャリア教育 Career Education

- 千葉商科大学 ..... p.30
- 東京家政大学 ..... p.32
- 東京農業大学 ..... p.34

## オン&オフタイム

[図3]授業出席率 学生の9割が7割以上の出席率



出典：「大学教育の現状と将来～全国大学教員調査」(2010)東京大学

[図4]興味関心がある製品・サービス 自動車は人気低下

	以前の大学生 (現40～50代)	現大学生
興味関心数	5.22個	8.96個
クルマ順位	7位	17位
1位	ファッション	パソコン
2位	国内旅行	ファッション
3位	外食・食べ歩き	携帯音楽プレーヤー
4位	書籍	通信機器
5位	音楽	国内旅行
6位	映画	音楽
7位	自動車	書籍
8位	パソコン	アニメ・漫画
9位	海外旅行	ゲーム
10位	オーディオ	外食・食べ歩き
11位	カメラ	映画
12位	テレビ	カメラ
13位	アニメ・漫画	海外旅行
14位	宝飾品・アクセサリ	テレビ
15位	スポーツ用品	語学・資格試験
16位	化粧品、エステ	化粧品、エステ
17位	時計	自動車
18位	語学・資格試験	時計
19位	携帯音楽プレーヤー	家具・インテリア
20位	自動二輪	宝飾品・アクセサリ

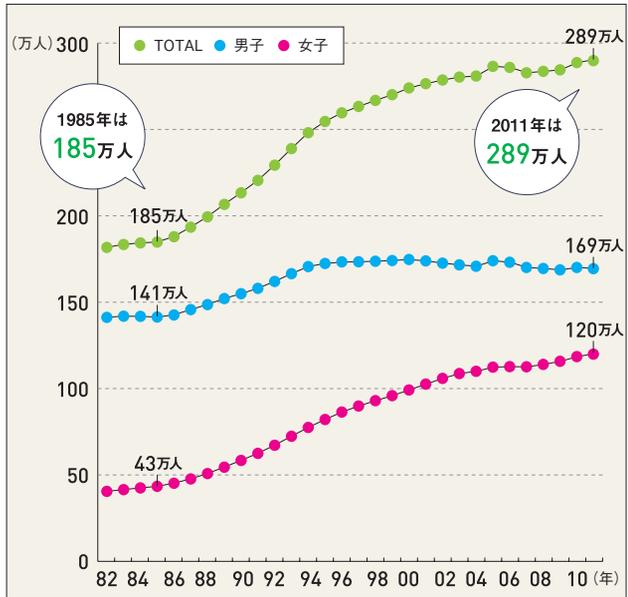
出典：「乗用車市場動向調査」(2008)日本自動車工業会

かつて大学が「レジャーランド」と呼ばれていたころは、授業に出ないのが当たり前でした。ところが最近の大学生は、はじめに言ったと言われているが、それを端的に示しているのが**図3**。これは全国の大学教員へのアンケートですが、学生の平均出席率は8.6割。出席率10割の学生が1/4近くを占めるようです。

一方で趣味や嗜好もずいぶん変わりました。以前と現在の大学生を比較すると「興味関心数」がかなり増え、興味の対象がグンと広がったことがわかります(**図4**)。「自動車」の順位の低下は象徴的です。

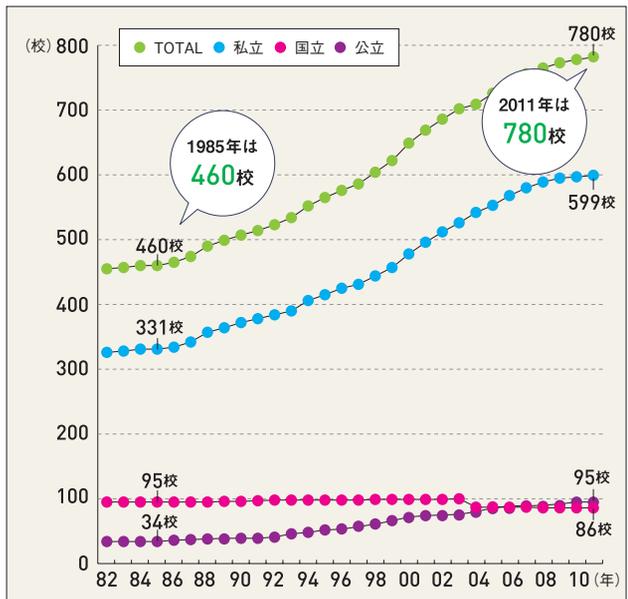
## 大学マーケット

[図1]大学生数 女子は約3倍に



出典：「学校基本調査」(平成23年度)文部科学省

[図2]大学数 大学は300校以上増加



出典：「学校基本調査」(平成23年度)文部科学省

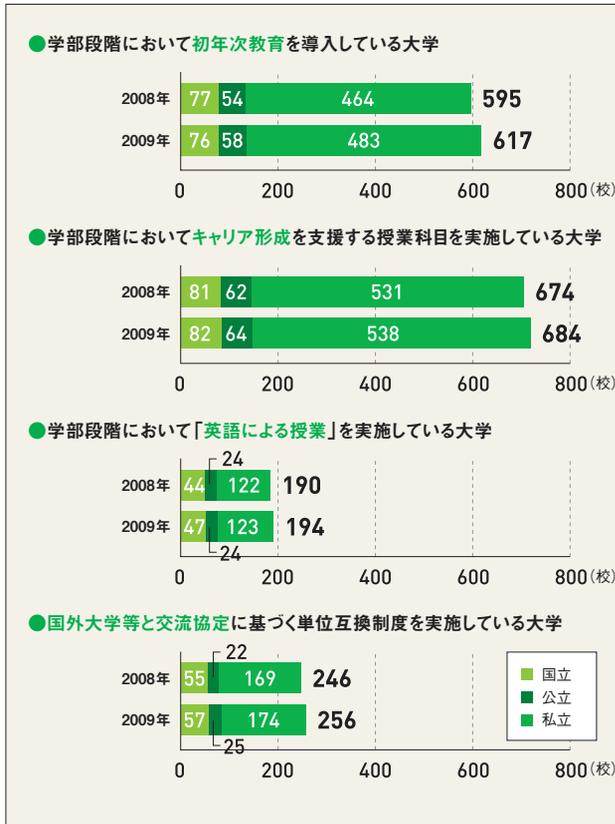
保護者の世代と現在の大学生世代とで一番違うのは、大学生や大学の数かもしれません。それらが大幅に増加しているのです。

例えば1985年と2011年とを比較した場合、大学生数は185万人から289万人へと100万人以上も増加(**図1**)。この間に男子が1.2倍になる一方で、女子は2.8倍にもなりました。

大学数は460校から780校へと300校以上増加(**図2**)。私立大学は1.8倍になっています。意外にもその上をいくのが公立大学で、この四半世紀で2.8倍になりました。

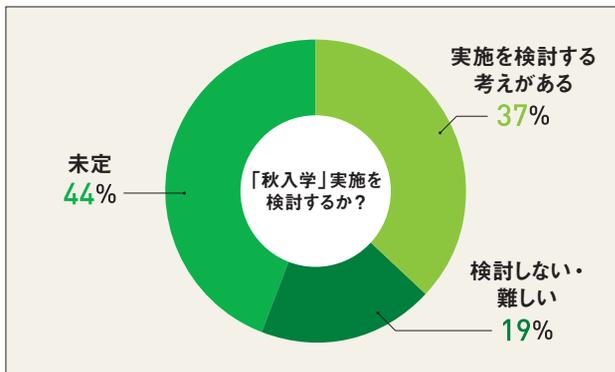
## 大学改革

【図7大学教育改革】教育改革が全国的に進行中



出典：「大学における教育内容等の改革状況について」(平成21年度)文部科学省

【図8秋入学】37%・29大学が「検討したい」



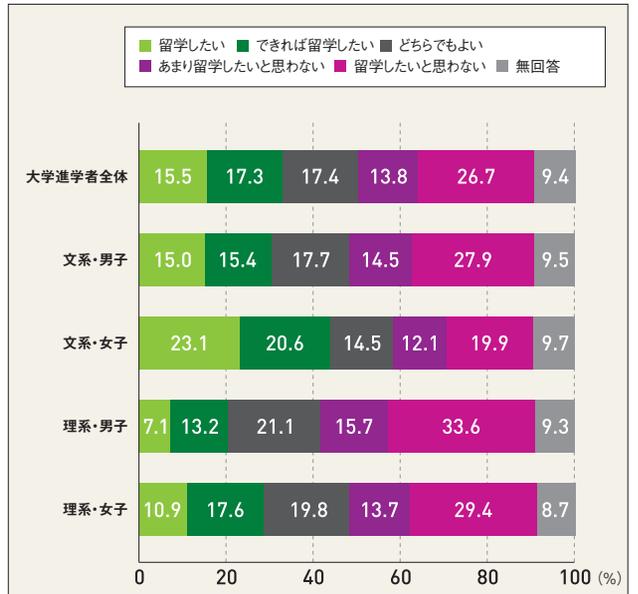
出典：東京大学を除く全国81国立大学へのアンケート調査(2012)NHK

以上のように若者が変わり、社会も激しく変化するなかで、大学の中心も変わりつつあります。大学教育への移行をスムーズに行うための初年次教育や幸福なキャリアの形成を支援するキャリア教育、英語による授業や留学制度の充実など、さまざまな教育改革が進んでいます(図7)。また、東大に続いて「秋入学」を検討する大学も出始めました(図8)。今後、大学の教育改革は二層加速するものと思われる。

次ページからの大学レポートで各大学の具体的な取り組みをご覧になり、進路選択にお役立てください。

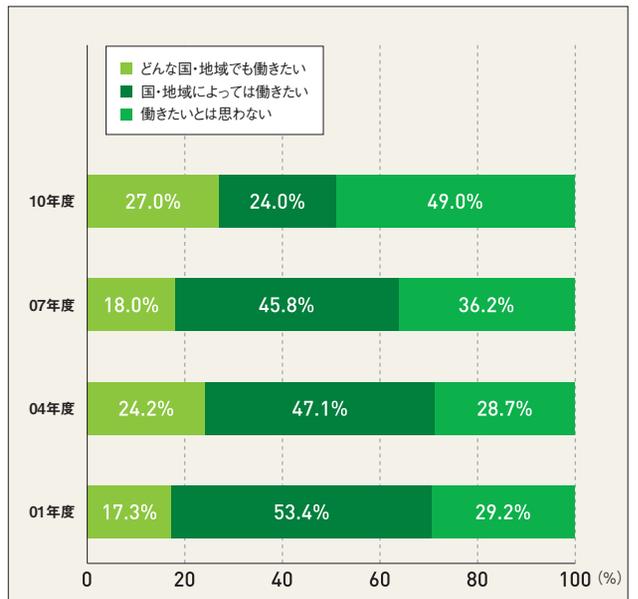
## 海外志向

【図5留学意向】理系男子は最も「留学したくない」



出典：「大学進学者の留学意向」(2011)リクルート

【図6海外で働きたいと思うか】中間層が減少傾向



出典：「第4回新入社員グローバル意識調査」(2010)産業能率大学

海外志向について、最近の若者は「内向き」という指摘もありますが、どうでしょうか？ 大学進学者全体の留学意向は「留学意向あり」が33%、「留学したい+できれば留学したい」、「留学意向なし」が41%（留学したいと思わない+あまり留学したいと思わない）で、留学したくない人のほうが多い傾向です(図5)。

「海外で働きたいか」を新入社員に尋ねた調査では、「どんな国・地域でも働きたい」という人と、「働きたいとは思わない」という人が増加傾向にあり、海外志向は二極化しているのかもしれない(図6)。